

ご あ い さ つ

大東流合気柔術 琢磨会

大会会長 森 恕

琢磨会は、大東流中興の祖である武田惣角から、唯一人免許皆伝を受けた久琢磨によって組織された大東流合気柔術正統の技を伝える本邦随一の古武道団体であり、武田惣角最晩年の進歩円熟した数多くの技法を忠実に保存伝承する由緒と意義のある団体であります。

我が琢磨会は昭和五十五年十月、偉大な中心人物であった久琢磨を喪った後は、会員一同結束を固め、久琢磨の遺志を体して、大東流の研究と錬磨・保存と伝承に努めて参りました。

昭和五十六年を第一回として毎年開催してきた演武大会もその活動の一環であり、今年で三十五周年を迎えました。この三十余年の間に、支部数・会員数は何れも飛躍的に増加し、琢磨会は今や古武道界屈指の大団体に成長して参りました。

これは、これまで琢磨会を支持し、種々ご指導ご支援を頂いた多くの方々のご芳情の賜物と厚く感謝申し上げます。

技法面でも基礎技を確実に身につけた厚い会員層が定着をしてきており、琢磨会に遺された真の合気に通ずる奥義秘伝の技の研究、膨大な技法の体系的整理、伝承方法等の検討も、今は着実に進められてきております。

大東流の技には古武道でありながら近代的合理性があり、しかも同時に、仲々会得し得ない神秘的な秘伝技法を具有していて、単なる文化遺産としての価値だけではなく、汲めども尽きぬ新鮮な魅力が溢れています。

近時、大東流は益々内外の関心をよび、特に、多くの神秘性と変化に富んだ技を伝承する琢磨会は、武道界の熱い注目を集めておりますが、我々はこの三十五年の大きな節目を大切にしながら、研究に稽古に、更に一層の努力を傾注して参りたいと思っております。

会員諸氏の更に一層のご精進ご協力を切に願う次第であります。

琢磨会とは

琢磨会は、大東流合気柔術中興の祖、武田惣角より唯一人免許皆伝を受けた、優れた知性派の武道家久琢磨を中心に、その門弟たちによって結成された武道団体である。

久琢磨は明治28年11月3日、高知県安芸郡佐喜浜に生まれ、大正4年神戸高商（現・神戸大学）に入学、相撲部主将として活躍した。卒業後鈴木商店に就職したが、神戸高商の先輩石井光次郎に誘われ朝日新聞社に入社した。庶務部長在職当時、社業の一環として、植芝盛平を招いて指導を受け、次いで武田惣角より厳しい稽古をうけた。久琢磨は植芝盛平・武田惣角より指導を受けた技を写真に収めて総伝10巻にまとめた。現在これが大東流合気柔術の初伝から皆伝まで多数の技法資料として琢磨会に伝承されている。

惣角の門人は3万人ともいわれ、植芝盛平をはじめ多くの教授代理がいた中で久琢磨は、昭和14年3月武田惣角より唯一人の免許皆伝を許され、以後この武道の保存普及に尽力した。昭和34年関西合気道倶楽部を開設して後進の指導に当たっていたが、昭和50年久琢磨を中心に門弟達によって団体が結成され、千葉紹隆の提案により琢磨会と称することとなった。

久琢磨は昭和55年10月31日他界したが、事後を託して任命された森恕総務長のもと、一致団結して正しい技法を研究錬磨し、さらに次代へ伝承すべく、次のような活動や行事を行っている。

- ・門弟および会員の指導と拡大
- ・昇級昇段審査会
- ・機関誌の発行
- ・合同稽古
- ・指導者研究会
- ・演武大会

昭和54年、財団法人日本武道館が、文部省の後援を受けて作成した記録映画第1号に、大東流合気柔術がとりあげられ、琢磨会の人々が中心になって出演したことに、古武道界における琢磨会の評価をうかがうことができる。

発足当初7支部であったが、現在海外もふくめ、50以上の支部同好会を数えるに至っており、益々その充実を図っている。

お問合せ:kiyodaitoryu@gmail.com

幹事長 小林清泰